

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

掛川市教育委員会

1 はじめに

本市立学校における「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要をお知らせします。本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子どもたちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

2 調査結果の概要

小学校では、全国との比較では、国語 A B、算数 A、理科において全国の前年正答率を上回りました。また、県と比較すると、全ての科目が県の平均正答率と同じか、または上回っていました。算数 B では、全国の前年正答率をわずかに下回りました。しかし、公表された都道府県ごとの平均正答率と掛川市の結果を比較すると、県と市を比較することは適切ではないかもしれませんが、算数 B はほぼ中間的な位置にいます。

中学校では、全国との比較では、国語 A B、数学 A B、理科の全てにおいて全国の前年正答率を上回りました。また、県と比較すると、数学 A B 及び理科では県の平均正答率と同じ結果となり、国語 A B では県の平均正答率を 1～2 ポイント下回りました。しかし、公表された都道府県ごとの平均正答率と掛川市の結果を比較すると、国語 A B、数学 A B、理科の全てにおいて、上位に位置しています。特に思考力・判断力・表現力が問われる数学 B では、全国トップクラスに位置しており、5 年連続の高成績でした。

3 市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
掛川市	71%	56%	64%	51%	62%
静岡県	69%	56%	63%	51%	60%
全国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%
中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
掛川市	77%	62%	68%	50%	68%
静岡県	78%	63%	68%	49%	68%
全国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%

【全国・県の平均正答率を 100 とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
静岡県比較指標値	103	100	102	100	103
全国比較指標値	100	102	101	99	103
中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
静岡県比較指標値	99	98	100	102	100
全国比較指標値	101	101	103	107	103

4 全国と比較して正答率の高かった主な内容（○）と低かった主な内容（・）

※全国比

(1) 小学校国語

- 目的に応じて必要な情報を捉える問題。
- 話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題。
- ・漢字を文の中で正しく使う問題。（しょう毒・せい造）

(2) 小学校算数

- 分度器の目盛りを読み、 180° よりも大きい角の大きさを求める問題。
- 円直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ問題。
- ・示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ問題。
- ・横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く問題。

(3) 小学校理科

- 流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ問題。
- 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ問題。
- ・食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶ問題。
- ・人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ問題。

(4) 中学校国語

- 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題。
- 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題。
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題。

(5) 中学校数学

- 文字式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形させる問題。
- 比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める問題。
- ・絶対値を求める問題。

(6) 中学校理科

- 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、条件制御を考える問題。
- 1つの要因を変えると、その他にも変わる可能性のある要因を指摘する問題。

- ・濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低い物を指摘する問題。

5 掛川の子どものたちの特長（主なものを抜粋）

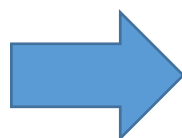
- ・住んでいる地域の行事によく参加している児童生徒の割合は、小学校は全国より 29.6 ポイント高く、中学校は全国より 41.4 ポイント高い。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合は、小学校は全国より 29 ポイント高く、中学校は 17.5 ポイント高い。
- ・「自分には良いところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より 4.3 ポイント高く、中学校は 6.4 ポイント高い。
- ・「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より 5.7 ポイント高く、中学校は全国より 18 ポイント高い。
- ・「理科の授業で、観察や実験を週 1 回以上している」と答えた児童生徒の割合は、小学校は全国より 9.9 ポイント高く、中学校は全国より 28 ポイント高い。
- ・1 日あたり 30 分以上読書を行っている児童生徒の割合は、小学校は全国より 2.5 ポイント高く、中学校は全国より 3.6 ポイント高い。
- ・月に 1 回～毎日、新聞を読む児童生徒の割合は、小学校は全国より 2.9 ポイント高く、中学校は全国より 2.1 ポイント高い。

6 調査結果より

(1) 調査結果における今年度中学校 3 年生の指標値の推移

平成 27 年度 小学 6 年の結果

	静岡県	全 国
国語 A	98	101
国語 B	100	103
算数 A	101	104
算数 B	99	100
理 科	101	100



平成 30 年度 中学 3 年の結果

	静岡県	全 国
国語 A	99	101
国語 B	98	101
数学 A	100	103
数学 B	102	107
理 科	100	103

(2) 調査結果から見えてくること

正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

<小学校・中学校共通>

- ・学校の規則を守っている。
- ・朝食を毎日食べている
- ・授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。
- ・算数（数学）の勉強が好き。／算数（数学）の勉強は大切だと思う。算数（数学）の授業の内容がわかる。問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。／公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。／問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- ・理科の授業の内容はよくわかる。／理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている。／観察や実験の結果をもとに考察している。／観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。
- ・これまでの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していた。

<小学校>

- ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。

<中学校>

- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ・家で、学校の授業の予習、復習をしている。
- ・数学の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

担当 学校教育課（増田）

電話番号 21-1156